

交換留学報告書

派遣先	
三重大学での所属学部・研究科	人文学部
学年(出発時)	2年
大学名	ルール大学ボーフム
国	ドイツ
留学期間	2016年 3月 11日 ~ 2017年 3月 8日
派遣先での身分	交換留学生

一日の生活スケジュール(通学時)	
	記入欄
8:00	
9:00	
10:00	
11:00	
12:00	タンデム、昼食
13:00	タンデム
14:00	授業
15:00	授業
16:00	ドイツ語講座
17:00	ドイツ語講座
18:00	ドイツ語講座
19:00	ホストファミリーと夕食
20:00	
21:00	自習orホストファミリーの手伝い
22:00	
23:00	
0:00	

履修科目				
科目名	時間数/週	履修単位	使用言語	授業内容(レポート、試験、授業形態等)
ドイツ語A2	3h	2	独	個人ワークとグループワーク半々、試験あり
西洋の歴史(中世)	1.5h	2	独	先生がひたすら前で講義を行っていた
ドイツ語B1 (Landeskunde)	3h	3	独	パワーポイントでグループ発表
中級英語	3,5h	4	英	文法とリスニング、スピーキングはパートナーワーク
経済学	1,5h	2	独	数式を使った講義が多かった

大学のサポート	
チューターの有無	有
チューターのサポート内容	入学手続き、WG入居手続き、銀行口座開設手続き、保険加入手続き、大学内と大学近隣都市のツアー
語学コースの有無	有
コース名、料金、期間等	Orientierungskurs,約150ユーロ、17.03.-04.05.

生活	
住居のタイプ	ホストファミリー、一軒家
住居の名前	
部屋タイプ	屋根裏一人部屋
ルームメイト(国籍)	無
室内設備	机 椅子 タンス ベット 電気 等
共用施設	シャワー トイレ 洗面台
インターネット設備	有
大学までの交通手段(交通機関、所要時間)	バス、路面電車、地下鉄
アルバイトの有無	無
アルバイトの内容	

渡航	
Visaの種類	ドイツのパスポートがありました
Visa申請先	
Visa取得にかかった日数	
Visa取得にかかった費用	
Visa取得方法、提出書類等	
留学先大学の最寄り空港までの経路	
渡航費用	91,250円
ピックアップサービスの有無	無

帰国後	
留年や卒業の遅れの有無	無(有)
有る場合、その理由	単位が取りきれなかった場合
就職活動開始時期	
帰国後の進路	大学でゼミに入り多国籍企業について学ぶ

留学にかかった費用	
現地通貨＝日本円(約)	1ユーロ＝120円
保険料(海外旅行保険、国民健康保険等)	85ユーロ/月
学費(教科書代や語学コース授業料等)	1700ユーロ
宿舍費(月額)	0
光熱費(月額)	0
食費(月額)	4,000円
その他	
留学期間中にかかった費用の合計	

感想等(※800字以上で語学勉強の成果についての内容も含め、ご記入ください。)

留学は高校生の頃からしたいと考えていて、当初は大学三年次に行こうと思っていましたが、早いに越したことはない今回の留学に踏み切りました。正直二年次でも三年次でも変わりはないかなという印象ですが、この一年が自分の将来にもものすごく大きな影響を与えることは間違いないです。語学力の向上が第一目的でしたが、精神面での成長も同じかそれ以上になったと感じています。ドイツでは18歳が成人なので、自分よりも2年早く自立について考え経験し出した人間がたくさんいて、そこから学んだことが多くありました。また、日本よりも実力主義というか、若かろうが年をとっていようができることの質と量で他人を判断する国で、自分の弱み強みを発見または再確認できました。私のホストファミリーもとても素敵な方々で、二世帯8人の大家族だったのですが、いつも和気藹々と賑やかでポジティブな環境でした。小さいやんちゃものの子供が3人いて、毎日のように叱責と泣き声が飛び交っていましたが、それも楽しかったです(笑)。お手伝いの一貫としてその3人のお世話もしていましたが、世のお母さん方を尊敬するばかりです…。大学でもたくさんの友達ができて、毎週決まった時間に会い一緒にドイツ語と日本語の勉強をしました。最初の頃はこれがつらくて、なにせ2時間ドイツ語を話しっぱなしで、連続二人と計4時間話した日には、家に帰ると脳がジンジンしてうまく話せなくなり、すぐ寝ていました。でもそれを続けたおかげで一年でゲーテのテストB2まで取ることができたし、その人たちとは仲のいい友達になったのでとてもよかったと思います。授業が詰め詰めでもなくバイトもなく(ホストファミリーのレストランのお手伝いのみだった)、時間がゆったりとあったのも私にはいい経験でした。予定を詰め詰めにする癖があり、大学一年次は詰めすぎて失敗することが多かったのも、余裕を持った計画を立てるいい機会でした。また、新しいことに挑戦するチャンスでもあったので、編み物や水泳や料理や、パソコンのブラインドタッチなど、空いた時間を好きに、有意義に過ごせました。ホストファミリーの自営のレストランでのお手伝いを通じて、会社運営や事務業務の詳細、人とのネットワークの大切さなど、経営の裏側まで見せてもらったこともとてもいい経験になりました。また政治家が決めた政策の影響が、小さな町の個人経営レストランにまでどのようにして及ぶのか、それも自分の目で見れたような気がします。一年間本当に楽しかったです！帰国してから若干自分の話す日本語がおかしい気もしますが(笑)、これからもドイツ語も留学中の経験も忘れないようにしたいと思います！

今後留学する人へのアドバイス

三重大大学はドイツの有名協定校として、ハイデルベルク、ライプツィヒ、ボーフムがありますが、その中で私は絶対にボーフム大学をおすすめします。まずこの地域ではドイツの中でも一番と言っているほど標準語に近いドイツ語が話されており、方言による聞き取りの大変さはほぼありませんでした。南ドイツの方言はドイツ人でも何を言っているかわからないことがあるので、聞き返せない状況の場合には大変苦労します。また、ボーフム大学は日本学という専攻科目があり、そこで日本語を勉強しているドイツ人は他の大学で勉強しているドイツ人よりも日本語が話せるということも聞きました。私が知り合った日本学の生徒のみなさんも真面目な人が多く、流暢に日本語を話す人も、たまに私よりも日本の歴史や政治について知っている人もいました。もうひとつ、学生の優遇がすごかったです。大学の授業料が303ユーロ/学期 かったのですが、その中にゼメスターチケットの代金が含まれていて、ボーフム大学が位置するノルトライン・ヴェストファーレン州中の公共交通機関が乗り放題になりました。これが本本当に便利で、最初のうちに何度か乗り換えや行き先を間違えることがあっても余分な運賃はかからなかったし、週末に新しくできた友達と交通費を気にせず色々なところを回れたりしました。なのでこの303ユーロは迷わず払ってください。そしてこれはボーフム大学のものだけではありませんが、学生証があればだいたいの施設で割引かタダにしてくれます。困ったこととしては、保険の加入手続きの際に、日本で海外保険に加入していたにも関わらず向こうでもまた新しい保険に入らないといけないと言われたことでした。私はホストファミリーの助けもあり結局日本で入った保険のみで押し通しましたが、他の日本人留学生は加入させられていました。受付の人はすごく親切そうに対応します、気をつけてくださいね！(笑)手続きや生活用品の購入などで困っても、基本的には既に留学している先輩方が助けてくれます。日用品に関しては、伝統のように受け継がれてる先輩の鍋とか体重計とかもあったので、ぜひもらって使ってください(笑)一人のときに困っても、英語を話すことに対して抵抗のある国でもないの、英語でなんとかしようと思えばなります。最近は難民やISの影響で治安が悪化していますが、日本みたいに安全じゃないことを意識していればめったに盗まれたりといったことはありません。落し物は85パーセント返ってきます(笑)ちなみにボーフムから電車で30～40分くらいのところにデュッセルドルフという日本の企業がたくさん集まっている町があって、そこ日本人の方が経営してい

報告書記入日